權八伊達姿（八卷）（三一九米）

帝キネ時代映畫

監督並脚色者　三村伸太郎
監督者　山下秀一
撮影者　池田專太郎
主演者　市川玉太郎
　　鈴木澄子

紹介

第三百八十九號

從來取扱はれた權八物と違つた甚だ映畫的に考慮して成されたシナリオである。本庄助七と權八が親友である邊、助八が權八の腕を嫉んでゐる氣持などを最初に取扱ひ、助太夫を斬つて江戸に來る權八と長兵衛出會ひの所、權八が草鞋すれに藥を塗る細心な描寫など是は實にいゝ進展さを自然に見せてゐる。阿部豐後の徒士部屋の雰圍氣と小紫との戀の初まり、辻斬で殺めたのが同じ長屋の孝行者で助七の愛人となる娘の父であつたり、相當な因果律と絡みとを持ち乍ら最後のクライマックス迄興味深く引いて行く力、シナリオの良さと山下監督の老練さがある。芝居染みた悪ざい絡みの無い所に此の作品が從來の權八小紫比翼塚物と違つた良さを發見する。山下監督が異常な進境を見せてゐるのはその構圖の良さである。辻斬の所で霧こめた橋上のコンポジションは一幅の美術寫眞を見る觀があつた。池田キャメラマンの腕も認めていゝものである。併し事實に就て云へば此の霧は朝の感じが出過ぎてゐたので辻斬が夜であるといふ概念から少し不自然に思はれる。玉太郎も美丈夫らしく、明石の僅かなワキ役も一段と貫祿づけてゐる。澄子の小紫、情餘つて淋しさが薄くなつた感じ。吉頂寺は良き助演。

――友田純一郎――

興行價値――少し題名に依る陳腐さが災ひするにしても內容は斷然面白きもの。呼び物。

（一月十日　淺草常盤座）